

# 第3次 精華町食育推進基本方針

平成30年度～平成34年度



平成30年3月

京都府 精華町

精華町では、これまでの食育推進基本方針と、近年の「食」を取り巻く環境の変化や諸課題を踏まえ、平成30年度から平成34年度までの5か年を推進期間とした「第3次精華町食育推進基本方針」を策定しました。

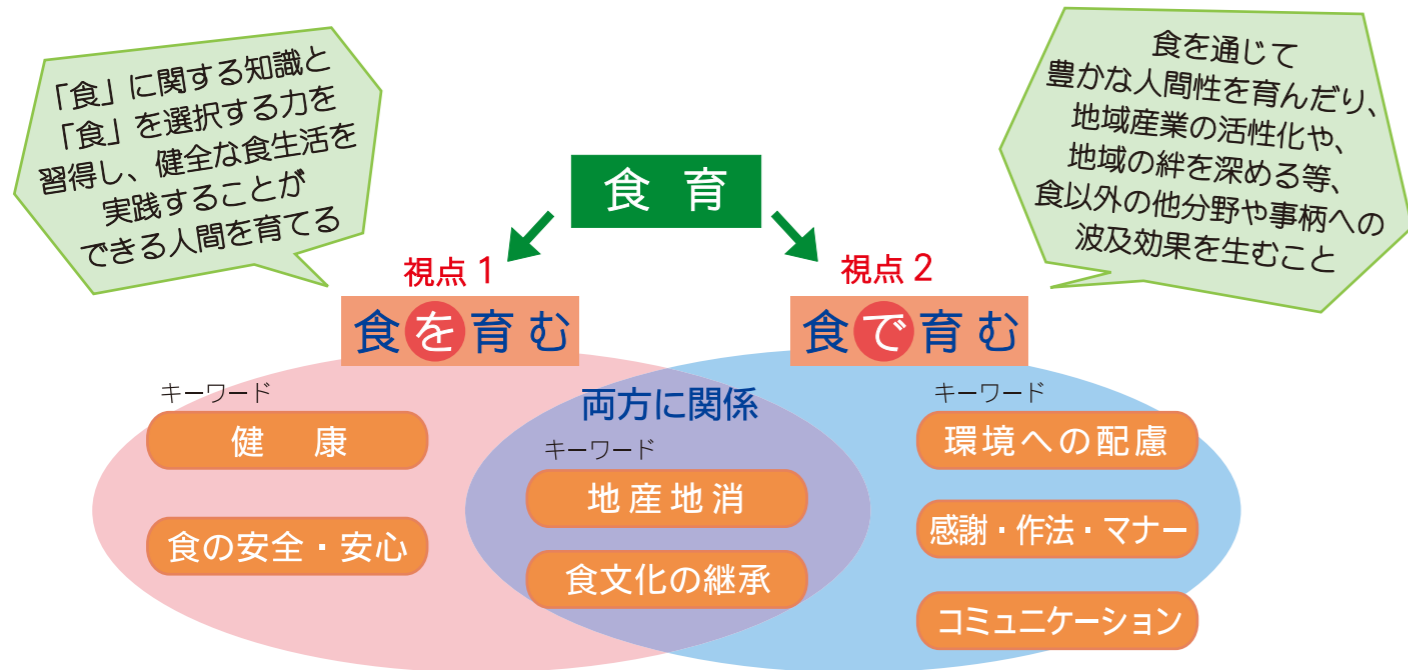
## 食育推進の基本理念

# 「食」を育む、「食」で育む 精華町

今後も住民、関係団体、関係機関、行政等が連携しながら、“「食」を育む、「食」で育む精華町”を基本理念とする本町の特性を活かした食育を推進し、食を通じてさまざまな世代が笑顔で心豊かな生活を送ることができるような取組を目指していきます。

## 食育における 2つの視点と基本的考え方

「食」を育む 「食」で育む の2つの視点から、精華町が目指す「食育」について検証し、食育のあるべき姿を描き出しました。



## 基本的考え方

- 1 家庭における食育の推進
- 2 体験を通じた食育の推進
- 3 住民参画・協働による食育の推進
- 4 町の特性を活かした食育の推進



高齢者や子どもの「孤食」増加への対策



作物を育てる、収穫する、料理をする、食べる体験が重要

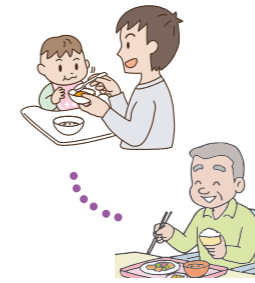


学研都市の特徴を活かし、大学や企業との連携を強化

## 7つの基本目標

### 1 健康寿命の延伸につながる食育の推進

乳幼児期から生涯を通じて、望ましい食習慣を実践できるよう、全てのライフステージにおいて、住民一人ひとりが「食」への関心を高め、実践につながる取組を展開します。



■栄養バランスに配慮している人の割合



全国より低い

健全な食習慣の実践につなげるための情報提供を行ったり、体験教室を開催します。

■生活習慣病予防のための食生活を実践している人の割合



男性が低い

### 2 食の安全・安心の確保

学校・保育所において安全な給食を提供するとともに、食品の安全性をはじめとする「食」に関する正しい知識と理解を深め、自分自身でより良い選択ができる力を身につけるための取組を進めていきます。



### 4 食文化の理解と継承

子どもの頃から地元の食材に直接ふれる機会をつくり、これまで地域で受け継がれてきた食文化を後世に伝えるために積極的に情報を発信していきます。



日本型食生活がおすすめ

伝統的な料理についての情報発信を行い、料理教室を開催します。

### 6 食に対する感謝の心や作法・マナーの育成

自然の恩恵や生命をいただくこと、また、生産者や調理をする人など「食」に携わる全ての人々への感謝など、食を通じてさまざまな感謝の気持ちや、食べ物の大切さ、「もったいない」という心の育成を図ります。

また、子どもの頃からの食事マナーや作法の習得を、家庭での育成に向けた取組や、学校・保育所の給食を通じた育成に努めます。

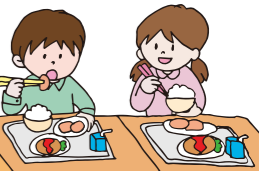


感謝

### 3 地産地消の推進

生産者と消費者の交流を促進し、両者の相互理解を進めるなかで地産地消を推進します。そこで、学校・保育所給食の地域食材の使用率を高め、直売所や各種イベントで地域食材の提供を促進し、地産地消の重要性を積極的に発信する取組を進めていきます。

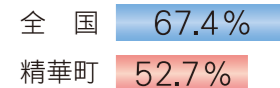
給食において地域食材を増やしお米は100%精華町産を提供します。



### 5 食品ロスの削減

「食品ロス」の認知向上に関する啓発事業の実施を含め、大学との連携を活かした「食品ロス」削減に向けた取組を住民及び事業者に対し、展開していきます。

■食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合



全国より低い!

食品ロスとは食べられるにも関わらず捨てられている食品

### 7 食を通じたコミュニケーションの促進

家庭や地域での「共食」の機会を増やす工夫をしていきます。

共食

食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図る「共食」は、心身ともに健康な身体づくりに大きな役割を果たすだけでなく、楽しい食事やおいしさの記憶として、生涯にわたる重要な財産となります。

地域と一緒に料理や食事をする機会を設けたり、高齢者の食を通じた交流の場を提供します。



# 評価指標とH29年度評価とH34年度の目標値

施策の成果や達成度を客観的に把握するため、目安となる数値目標を設定し取り組みます。

【評価の見方】 ◎：目標値を達成 ○：目標値は達成していないが改善 ▼：目標値を達成せず悪化

評価項目	H24年度の数値	H29年度の現状値	評価	H34年度の目標値				
「食育」という言葉を知っている人の割合	90.4%	92.9%	○	100%に近づける				
「食育」に関心を持っている人の割合	71.1%	68.4%	▼	90%以上				
朝食を毎日食べる人の割合	乳幼児	88.1%(H23年度)	96.6%(H28年度)	◎	100%に近づける			
	保育所児(※1)	96.4%	96.9%(H28年度)	○	100%に近づける			
	小学校児童(※2)	93.6%	94.6%(H28年度)	○	100%に近づける			
	中学校生徒(※3)	86.0%	95.6%(H28年度)	◎	100%に近づける			
	妊婦	80.4%(H23年度)	80.6%(H28年度)	○	95%以上			
	成人	89.6%	20歳代	72.2%	87.9%	60.8%	95%以上	
			30歳代	85.8%		79.0%	95%以上	
			40歳代	84.0%		87.5%	95%以上	
50歳代			91.4%	88.8%		95%以上		
60歳代			94.2%	94.0%		95%以上		
70歳以上			95.3%	97.5%		100%に近づける		
食事の時、栄養バランスに配慮する人の割合	乳幼児	65.8%(H23年度)	80.0%(H28年度)	◎	80%以上			
	妊婦	68.6%(H23年度)	74.6%(H28年度)	○	80%以上			
	成人	70.0%	20歳代	53.2%	69.3%	41.9%	▼	80%以上
			30歳代	72.5%		59.2%		
			40歳代	70.6%		76.0%		
			50歳代	66.7%		69.9%		
			60歳代	72.9%		74.9%		
70歳以上	73.4%	76.0%						
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している人の割合	—	66.1%	—	75%以上				
給食での地場産物の年間利用回数の割合	保育所給食	8.1%(H23年度)	13.0%(H28年度)	◎	15%以上			
	小学校給食	12.0%(H23年度)	19.8%(H28年度)	◎	20%以上			
食品ロス(食べられるのに廃棄する)削減のために何らかの行動をしている人の割合	—	52.7%	—	80%以上				
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や食事のマナーなどを伝えている人の割合	—	40.0%	—	50%以上				

※1：保育所児＝4.5歳児 ※2：小学6年生 ※3：中学3年生

あすなる会

せいが食育劇団もぐもぐ

野菜のそごからプロジェクト

精華町では、町の食育推進のために活躍している住民主体の団体があるのよ。



みなさん自身も、食育について、できることから始めてみましょう！

◆お問い合わせ先◆ 精華町役場 健康推進課  
〒619-0285 精華町大字南稲八妻小字北尻70番地  
TEL：0774-95-1905 FAX：0774-95-3974